



MUSASHINO Vol. 136 *for* TOMORROW



慶應義塾機関誌「三田評論」より転載

武蔵野音楽大学学長に就任して

福井直昭(武蔵野音楽大学学長)

表紙：武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会 東京芸術劇場コンサートホール(2020年12月2日)

January 2021
vol. 136



年頭のご挨拶

学校法人武蔵野音楽学園 理事長 福井 直敬

新型コロナウイルス感染症が拡大しておりますが、皆様にはご健勝にてご越年のことと存じます。

本学園は、江古田キャンパスを全面的に増・改築し、令和元年、創立90周年を祝しました。関係者一同、創立100周年へのさらなる発展を期するべく決意を新たにされた昨年4月、コロナ感染症が世界的に流行し、非常事態宣言が発出されて以来、その対応に追われてきました。

当初は、学生、生徒の登校が不可能となり、オンラインによる授業を余儀なくされました。学生、生徒のみならず多くの教職員にとって、これは初めての経験でした。元来、一人一人の演奏を直接聴いて技術や表現を指導する音楽実技の研鑽は、遠隔授業に馴染みません。学生、生徒全員に機器の購入等を支援する「緊急支援給付金」を支給し、対面授業に劣らぬ教育成果を目ざして、関係者全員がさまざまな工夫と努力を重ねました。授業の停止から通常授業の実施まで、周囲の状況を勘案して9段階に分類した本学園独自の「感染拡大防止のための活動制限指針」を作成し、慎重に対面授業を増やした結果、昨年末には全体の約60%を対面授業に復すことができました。

学生、生徒が待ち望んだオーケストラ、ウィンドアンサンブル、合唱をはじめ予定した学園主催の演奏会も、昨年夏以降、感染対策を講じてその殆どを実施することができ、学生、生徒の喜び、感激は、また格別のものがありました。

さて、翻って昨年4月、私立学校法が大幅に改正され、施行されました。私立学校法で、学校法人が設置する大学や学校の、個々の建学の精神や教育理念に従った自主性、自律性が認められておりますが、私学が公教育を行うためには、公共性、公益性を担保し、安定した経営の継続が求められます。

このたびの改正では、特に学校法人自体の、また、理事、監事、評議員の職務と責任の明確化、情報公開の充実、中期的な計画の作成等が定められ、各学校法人がガバナンスの充実、強化を図るために、自主的にガバナンス・コードを策定し、公表することが推奨されました。

本学園では、既にガバナンス・コードを策定し、公開しております。また、新年度に向かい新たに総合型選抜を導入し、さらに奨学金の一層の拡充、学生自身が成長の跡を点検し評価をするための「学修成果の把握と可視化のシステム」等を導入します。また、懸案であった「楽器ミュージアム」、続いて「学園記念室」の開設を予定しております。

本年も、本学園の建学の精神と教育の方針に則して、教育研究、管理運営の両面にわたり一層の努力を続けてまいりますので、皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

武蔵野音楽大学 学長に就任して



武蔵野音楽大学学長
福井直昭



「インタビュー」
慶應義塾名誉教諭、元慶應義塾幼稚舎学長
大島誠一



明治31(1898)年に福澤諭吉によって創刊された慶應義塾機関誌『三田評論』。同誌内の人気コーナー「話題の人」に、本学 福井直昭学長が登場しました。昨年6月に本学で実施された取材でインタビュアーを務めたのは、幼稚舎時代、幼き日の福井学長を6年間担任された大島誠一氏。学長就任に至るまでの経緯や最前線に立って竣工まで導いた江古田新キャンパスに

ついて、さらには慶應義塾時代の思い出、今後の大学運営にあたる決意などを、恩師に向け熱く語っておられます。今回、『三田評論』編集部のご厚意により、このインタビュー原稿を転載させていただきました。

長く思い描いていた 学長就任

大島 今年(2020年)の4月に、お父様の直敬氏の後を継がれ、武蔵野音楽大学の学長にご就任されたこと、おめでとうございます。思いもよらぬ新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下での就任でしたが、どのように感じられていますか。

福井 有り難うございます。大島先生もご存じのとおり、40年前の幼稚舎生の時から、学長に就任することは常に意識してピアノを弾き続け、毎日を生きてきたので、ついにこの時が来たんだなと感じています。

しかし、まさかこのような未曾有の状況下での就任になるとは想像すらしませんでした。もちろん人間な



大島 誠一 Seiichi Oshima

元慶應義塾幼稚舎学長。1975年3月 東京学芸大学教育学部卒業、1977年3月 同大学院教育学研究科修了(教育学修士)。1977年4月に慶應義塾幼稚舎に奉職し、福井学長の学級担任を6年間務める。2012年4月より主事(教頭職)、2014年4月より舎長(校長職)を務める。慶應義塾より2017年11月には「義塾賞」を、2018年4月には「名誉教諭」称号を授与される。

ので、巡り合わせが悪いなという気持ちがないわけではありませんが、難しい舵取りを迫られるのも運命と捉え、大学運営に全力を尽くす所存です。

音楽大学の授業の多くは、座学ではありません。連休明けにまずオンラインによる授業を始めましたが、やはり「生の音」を扱う科目が多い以上、難しい部分があります。緊急事態宣言解除を受け、現在では個人



福井学長のインタビューが掲載された『三田評論』2020年8・9月合併号。オンラインサイトのアクセス数では、暫くの間、全記事のランキングで1位となった。優れた執筆陣による幅広い知見、時宜に適した社会的な諸問題も取り上げるなど多彩なテーマ性を誇る同誌は、明治・大正・昭和・平成・令和の5代にわたり長い生命を保ち続け、私学の機関誌の枠をこえた大きな足跡を我が国の文化に印している。

レッスンを対面式に切り替えています。また、音大生は楽器や住環境によっては、大学で練習もしたいわけですね。今後も世の中や学内の状況をウォッチしながら、慎重に、段階的に、活動制限を緩和していきたいと思っています。

「〈和〉のころ」と 「独立自尊」

大島 就任に当たって、読みが同じ名前の創立者、曾祖父の直秋氏への思いを聞かせていただけますか。

福井 私が生まれた時は、既に曾祖父は亡くなっていましたが、もちろん物心が付いた時から名前をもらったことを聞かされていました。また、当時芸大の学長を務めていた祖父は、年間15回くらい野球観戦に連れていくほど私を可愛がってくれ、「これは孫のナオアキ。自分の父と同じ名前だから変な気分なんだよ」と言って、いつも会う人に私を紹介していました(笑)。

曾祖父はもともと富山のお寺の子だったんです。それが、西洋音楽がほとんど浸透していない明治の初期に音楽家を志し、作曲家・教育者として日本に音楽の礎を築きました。その後、昭和4年に武蔵野音楽学校を

つくり、昭和24年、日本で最初の音楽大学として認可を受けました。もし曾祖父が音楽家を志さなかったら、私は今頃お寺のお坊さんだったかもですね(笑)。

大島 戦前、外国や東京音楽学校など

で学んだ人たちが中心となって、曾祖父様に新しい音楽学校の創立を求めたのが、武蔵野の原点ですね。

福井 「〈和〉のころ」というのが建学の精神です。創立者の福井直秋に学校を創ることを望んだ生徒たち、創立者の教育理念に共鳴した教職員、善意で支援をしてくれた多くの協力者の方々、そして創立者、この4者の「和」で武蔵野ができた。皆、私心を捨てて心をひとつにした結果、当時不可能と言われた私立の音楽学校が生まれたわけです。そのような「和」、音楽でいう「ハーモニー」を形成することの出来た曾祖父は、相当な強い心と人を惹きつける人格を備えていたのではないかと想像します。

その後も戦時中の大困難をはじめ、相当な苦勞を乗り越えてきたと聞きますが、このコロナの時代、変化が求められる時代にこそ、原点の再確認が必要だと感じています。

学長就任挨拶文における「〈和〉のころ」の説明は、その言葉自体は直接使用してはいないものの、慶應義塾の「独立自尊」を意識したものとなっています。協調と同調は違う、和の精神は「個々人の自立」と表裏一体



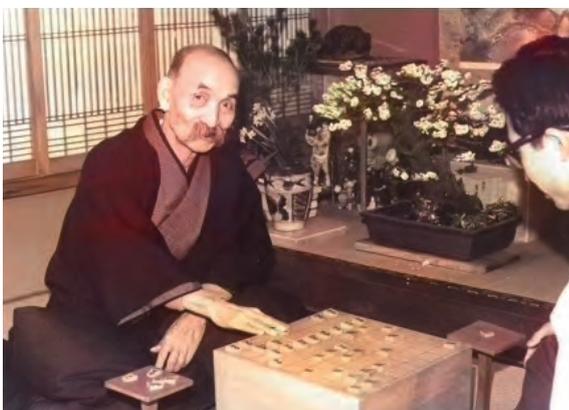
▲王貞治 ソフトバンクホークス会長(右)と祖父 福井直俊本学園元理事長(左)と一緒に(当時9歳)。直俊元理事長はこの1ヵ月前に10年間務めた東京芸術大学の学長を退官、また王会長は22年間務めた読売ジャイアンツでの現役最後の年の開幕を迎えていた。(1980年2月3日)



▲王氏の「一本足打法」を真似る福井学長(慶應義塾立科山荘にて)。学長初観戦の試合で、前日に世界記録となる756号を打っていた王氏は、なんと劇的なサヨナラホームランを放った。

となって捉えられるべきで、自身の考えをしっかりと持つことが大切だと説きました。福澤先生の唱えた独立自尊も、他人の尊厳を守る、つまり和があってこそその理念だと、私は慶應で学びました。

昨今、大学は建学の精神を大事にしろとよく言われますが、実際に学内にそれが息づくことは難しい。でも、福澤先生の精神が慶應義塾に今も脈々と受け継がれているように、武蔵野にも「〈和〉のころ」がしっかり根付いています。だからこそ未来に向け、創立者の心を教職員や学生に、信念をもって伝え続けていかなければと思います。そして、それは自分にはできるのではないかと自負している部分です。



▲将棋アマチュア三段の腕前であった福井直秋初代学長(右の対局者は直敬現理事長)。直昭学長は、曾祖父 直秋氏の趣味を自然に受け継ぎ、現在もプロレス・格闘技を観戦するほか、将棋アマチュア五段も取得している。



▲ベートーヴェンホール竣工式でテープカットをする創立者福井直秋氏。左は2代目学長直弘氏。直昭学長の生まれるちょうど10年前のことである。(1960年10月15日)



▲江古田新キャンパス竣工時に、設計施工を担当した(株)大林組の工事現場事務所の皆さんと(中央が福井学長)。5年以上1,500時間以上に渡る種々の会議を通し、実によくの方々との濃密な関係を築いた。(2017年1月23日)

伝統と先進性を 兼ね備えたキャンパス

大島 江古田キャンパスを大改造されて、2017年に堂々たる新キャンパスが竣工しましたね。

福井 幸い人間キャンパスがあったため、全面的な建て替えが可能で、多様性がありながらも統一感のある建物群を建築することができました。でも、キャンパスを丸ごと造り替えることは、やはり大仕事でした。ホール1つ造るのでも、ものすごく大変ですから。

全面的に建て替えた中で、日本で最初の本格的なコンサートホールと言われるベートーヴェンホール(1960年竣工)だけは、保存・改修して使っ

ています。このホールが出来た当初の日本には、本格的な音響設計を施したホールはほとんどなかったのです。そこに日本初のコンサートオルガンを設置したんですね。この2つのことで、当ホールは武蔵野のみならず音楽界の記念碑でもあるんです。

武蔵野が新しく生まれ変わろうとした時、同時に伝統も大事にしなければいけない。ベートーヴェンホールこそ伝統の象徴です。多くの卒業生達には、そこにさまざまな思い出があるのです。しかし、単に残すといっても、それまでの雰囲気・音響特性は維持しながら、安全性など、現行の法規に適合した現代仕様のホールに改修することは、経済的にも設計・施工的にも容易ではなかったのですが、今お話しした理由で、建設会社と議論を重ね、実現しました。

江古田キャンパスには、「大学キャンパスの枠を超えた音楽の街」というキャッチコピーがありますが、その魅力は、音大として考える機能をすべて持っていることです。3つのコンサートホールと3つのリハーサルホール、最適な音響の多くのレッスン・練習・合奏室を完備

しており、まさに総合的な演奏環境が実現しています。優れた機能性に加え、現代的でありながら重厚感のあるスタイリッシュなデザインを併せ持ち、大変評判がいいです。

大島 キャンパスの建て替えという大事業を、当時副学長として実質的に采配を振るわれたのです。

福井 大手総合建設会社と2012年にプロジェクトを立ち上げてから竣工までの5年間、約1,500時間すべての会議に出席しました。そうやって実に多くの方々と同じ気持ちと一緒に、同じ方向を向いて歩んだ時間はかけがえのない一生の宝物です。

そして、建築って素晴らしいなと思いました。同じ創造物ですが、音楽と建築は全然違う。演奏と違い、形として現れる。そして、長い時間残さなければいけない。ひとつでも



▲江古田新キャンパス竣工記念特別演奏会としてベートーヴェンホールで開催された「ケマル・ゲキチ×福井直昭 ピアノ・デュオリサイタル」。(2017年6月30日)



▲(財)日本建築防災協会主催の2019年度表彰において、ベートーヴェンホールのリニューアルに対して、権威ある「協会理事長賞」ならびに「耐震改修優秀建築賞」を受賞する。(2020年2月18日)

手を抜いたら、悔いが残るじゃないですか。妥協をせず、細部もおろそかにしないで頑張りました。音楽も妥協はしませんが(笑)。

慶應義塾で 将来の道を決める

大島 福井家は音楽一家ですが、幼稚舎に入ったのは福井君が初めてだと思います。ご両親はなぜ幼稚舎を受験させるという道を選んだのでしょうか。

福井 両親に直接理由を聞いたことはないのですが、推測するに、4つの理由があったのかなと思います。1つは、単純にピアノを毎日何年間も練習しなければならぬ時に、受験というものが足枷になるだろうと。

2つ目は、もしかしたら音楽家を目指す、ともすれば知識が偏りがちになる、あるいはそう見られるのではないかと考え、慶應の気風の中で勉強をさせたいと思ったのかもしれない。

3つ目は友人です。もちろん音大では音楽を共に学ぶ友人をつくれる。ただ、私の将来を考えた時に、色々な分野の友達を得たほうが良いと考えたのかもしれない。特に幼稚舎には様々な世界での活躍が期待される子がたくさんいるわけですから。

4つ目として、「あなたが本当に他のことをやりたいなら音楽をやめて

もいい」と母に一度言われたことがあります。父とは直接話していませんが、そういう選択肢を残すために、慶應の教育を受けさせてくれたのかもしれない。

実は一番大切なのは、この4つ目だと思っています。つまり、「自分の将来は自分で決めた」ということ。福井家に生まれたからやらされているんじゃない。最後は自分で決断したんだという感覚が今でも残っている。だからこそどんなに辛い時でも頑張れる。そのように感じられるのは、やはり慶應に入ったからかなと思います。

大島 塾高時代の成績は医学部の内部推薦をもらえるほどの成績だったそうですね。

福井 1年生前期、全部で900人近くの中で全学科の総合成績が1番でした。それで、担任の先生は当然医学部にと考えたわけですが、僕は、「考えていません」と言った。しかし、そのとき改めて自分の進路を考えました。そして、医学部に行けるような人間が武蔵野のトップにならなきゃ駄目だと言いついて聞かせて、他分野への誘惑は断ち切り、ピアニストの道を選びました。

なにより、他の仕事をやる人は他にもいるけれど、建学の精神を引き継ぎ絶対武蔵野を守っていく、というマインドを持った人間は自分以外にいないんじゃないかと勝手に思ったわけです。もちろん、4歳のころから練習していたピアノを捨てることもできなかったのですが。

幼稚舎時代の経験

大島 幼稚舎時代、お母さまが個人面談で「マンガの『ドカベン』ばかり読んでいます。どうなってしまうのか心配です」と話されたことを覚えています(笑)。あのころすごく野球が



▲幼少期からのピアノの師である母 八千代氏(右)と、姉 淳子氏(中央)と共に。八千代氏はインタビュー後の10月7日に逝去されたが、氏から授かったさまざまな教養を、これからも学生たちに伝えたいと、福井学長は言う。

好きだったよね。

福井 ちなみに『ドカベン』だけは、将来息子に読ませようと全巻保存してあったのですが、その念願叶い、現在息子たちも熟読しています。「歴史は繰り返す」ですね(笑)。

今でも野球に限らずスポーツ全般が好きですが、その理由は音楽と関わってくるのです。「消しゴムでは消せない世界」とでも言いませんか、本番でいかに普段の力を発揮できるか。実は努力の過程が大事なのですが、厳しい結果に直面することも多い。だから、本番で成功した喜び、いや、むしろ失敗した悔しさを味わうことこそ、人生をより豊かなものにする学生に話しています。

大島 16年間慶應義塾という恵まれた環境で過ごして得たものは大変多いのではないかと思います。その中でもこれぞというものは何ですか。

福井 1つといわれると、難しい。特に幼稚舎時代にはありません。同



▲1982年慶應義塾幼稚舎自尊館にて。同所では17年後、同校「創立125周年記念ピアノ演奏会」として演奏や講話を行なった。



▲文中にある大島先生からの卒業時最後のメッセージシーン。於：新高輪プリンスホテル(現グランドプリンスホテル新高輪)「飛天」(1983年3月21日)

じ担任の先生の下、6年間クラス替えをしないから、友人たちと先生と一体となった。他では味わえない経験です。

大島先生から最後に贈られた言葉をよく覚えています。「君には才能がある」と。「ただ、調子に乗りやすいところがあるから、そこに気を付けろ」とも言われました(笑)。「ご両親は素晴らしい方々だ」とも言っていただきました。

先生からの言葉をなぜ覚えていたかという、その真意と、積み上げてきた友達や先生との関係性、その他6年間の様々なことが凝縮されていたからです。そこに感動して泣いてしまったんですね。

偉大な音楽家の 真髓に触れる喜びを

大島 武蔵野音大の大学院修了直後の「クロイツァー賞受賞演奏会」をよく覚えています。福井君の演奏は圧巻で、ピアニストとしてのオーラを強烈に感じました。その後、ドイツのミュンヘン音楽大学に行かれたわけですね。

福井 ミュンヘンには、27歳で行ったんです。普通はもっと早く行くものですが。私はそれまで江古田で生まれて慶應と武蔵野しか知らなくて、



▲当時、音楽誌にも掲載された一枚。ミュンヘン在住時のお気に入りスポット、エンゲリッシャーガルテン(イギリス庭園)にて。(1999年夏)

一人暮らしもしたことがなかった。それが大人になってからドイツに2年間いたというのは、音楽もそうですが、人間としての教養・幅広さを身に付ける上で大変役に立ったと思っています。

大島 ピアニストとして大切にしていることは何でしょうか。例えば、ロボットが楽譜通りに正確にピアノを弾いても、当然良い音楽にならないわけですね。

福井 でも、作曲家は楽譜しか書いていない。楽譜にはいろいろなことが書かれているんですけど、実は「楽譜通り」に弾くことすら難しい。結局、深く楽譜を読み込まなければいけない。その読み方を学生に教えるのです。

一方で、音楽家には日々の継続した練習が必要です。実に孤独な作業



▲世界42カ国に衛星放送された「ブルガリア国立放送交響楽団創立50周年記念公演」でソリストを務める。於：ブルガリアホール・大ホール(1998年3月31日)

です。「もう練習は止めよう」という、自分の甘い気持ちとの戦いとも言えます。私も、毎日「もうあと30分」と思って、40年以上やってきました。

大島 最後にピアニストとしての抱負と、2029年の創立100周年という大事業に向けての学長としての夢をお聞かせ願えればと思います。

福井 ケマル・ゲキチさん(クロアチア生まれのピアニスト)と共に大きな演奏会を2021年に行う予定でしたが、コロナで1年先延ばしにしました。

私は90年代にゲキチさんの演奏に強く感銘を受け、その後親交を深めた後、東京オペラシティ等の大聴衆の前で、3回コンサートを開くことができました。自分の憧れだった人との共演は、華やかな舞台でのエキサ



▲「クロイツァー賞受賞者によるコンサート」終演後、大学院進学時から10年以上師事したトゥシャ教授(右)と、室内楽ほか指揮者とソリストの関係で30回近く共演したベルケシュ教授(左)に祝福される。於：津田ホール(1995年7月5日)



▲東京オペラシティコンサートホールでは2回開催された「ケマル・ゲキチ×福井直昭 ピアノソロ&デュオリサイタル」(写真は2012年7月6日)。次回共演は2022年実現予定。



▲巨匠フィリップ・アントルモン指揮による「ニュルンベルク交響楽団東京公演」でソリストを務める。於：すみだトリフォニーホール（2009年9月27日）

イティングな時間だけではなく、そこに至る対等な関係のもとでの共同作業——音楽を洞察し、共に実演する時間も実に充実していた。コロナが終息し、盟友と再び大きなステージで共演することが、ピアニストとしての近未来の願いですね。

学長としてですが、創立100周年まであと9年。答えのない問題や未知の課題に遭遇した際、広い視野を持ってそれらに対峙していける、AIには代替できないクリエイティブな能力を持った音楽人を育成していきたいです。嬉しいことにこの少子化の中、今年はとても受験生が増えました。教職員の努力と共に、新キャンパスの効果も大きいと思います。

学生によく言うのは、なぜ演奏をするのかということです。スポーツだと、現在のほうが記録を伸ばせますよね。でも音楽は何百年も前の曲を皆、一生懸命勉強している。はたから見るとよく分からないかもしれ



ないけれど、それは作曲家の天才性が彼らの楽譜の中から溢れ出ているからです。現代においても超えられない、何百年も愛され続けた珠玉の音楽には価値がある一方、学ぶのは決して簡単なものではない。偉大な作品の真理に少しでも近づき、そこに少しでも触れた時の幸福感・喜びを学生に味わわせてあげるのが教員の役割だし、そういう環境づくりをしてあげることが大切だと考えています。現在のこの事態を糧として、音楽界も新たな活路を見出し成長しなければなりません。

その一方で、同じ空間、同じ時間を共有し、演奏を通じて演奏者と聴衆が心通わせるスタイルばかりは変わるものではありません。それは五感全体で受け止めた音が、感動として生涯消えない刻印を心に残すからです。音楽は常に人々の心に寄り添い、時には勇気を与え、時には悲しさを分かち合ってくれます。いかに人々の生活環境が変わろうとも、音楽芸術に心を癒され、これに明日を生きる活力を見いだすという、人間が生来持つ本性は普遍であると、私は信じています。

そして今、武蔵野音楽大学に全てを傾注することができるのは、慶應

ないけれど、それは作曲家の天才性が彼らの楽譜の中から溢れ出ているからです。

現代においても超えられない、何百年も愛され続けた



▲「日々のレッスンや業務を通し、大学運営・教育・演奏の3つは互いに相高めあうことを確信しています」と、福井学長は語る。

義塾の教育のお蔭でもあると感じています。大島先生の近著を読んだときに、自分がいつも学生に話していることと重なることが多いので、強い共感を覚えました。これまで成長を見続けてきてくださった先生にインタビューしていただいて、とても幸せな時間でした。

大島 今後のますますの活躍を期待しています。有り難うございました。

（2020年6月17日収録）



▲本学管弦楽団定期演奏会のリハーサルにて、ソリストに最終指導を行う。於：東京芸術劇場コンサートホール（2020年12月2日）

福井直昭 *Naoaki Fukui*

1970年東京生まれ。幼稚舎より16年間慶應義塾で学び同大学経済学部卒業、武蔵野音楽大学大学院修了後、ミュンヘン音楽大学にて研鑽を積む。クロイツァー賞、ブルガリア国際コンクール「Music and Earth」全部門グランプリ（史上最高）、ハンガリー・ジュール記念シルバーメダル等受賞。「ブダペストの春」国際音楽祭でヨーロッパデビューを飾り、その後もハンガリー・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団東京公演、ブルガリア国立放送交響楽団創立50周年記念公演、ソフィア・フィルハーモニー管弦楽団定期公演、ピアノ新人会第100回記念公演（東京交響楽団）、ニュルンベルク交響楽団東京公演、日本・ハンガリー国交回復50周年記念 リスト音楽院管弦楽団東京公演等に出演するなど、ソリストとして内外で数多くの著名なオーケストラと協演。CDは、フンガロトン他のレーベルより4枚リリースし、「レコード芸術」特選盤に選出されるほか、「グラモフォン」誌等で絶賛を博す。2020年より武蔵野音楽大学学長。

2020年度 コロナ禍における 本学の教育活動

今年度はコロナ禍のため、例年とは異なる教育活動を余儀なくされました。キャンパス入口では毎日入構チェックを行い、学生・教職員の健康状態、学内での動向を調査すると共に、「キャンパス内の活動制限指針」によりレベル0から8までの制限内容を設定しました。また、オンライン授業を受講するための学内Wi-Fi環境の整備や、各レッスン室等に飛沫防止パネルの設置を行うなど、コロナ禍における大学としての対策を徹底してきました。これらの予防対策等を講じながら実施した本学の活動や取り組みなどの一部を紹介します。



▲ 入口で体温・入構目的・滞在時間等をチェック

授業の実施、課外活動

感染症の拡大に伴い、年度当初はオンラインによる遠隔授業が中心でしたが、緊急事態宣言が解かれたことにより個人実技レッスンについては6月10日より対面式を再開し、その他の授業でも状況を見ながら対面式を増やしてきました。7月の前期実技試験についても対面式で実施し、ほとんど全ての学生が受験した一方、登学できない学生にも配慮し、秋に特別試験を行う措置も整えました。



▲ 本学独自で製作した飛沫防止パネル



▲ 学友会主催クリスマス企画（ブラームスホール）

学生の課外活動については、やむなく秋の「ミューズフェスティバル」は中止となりましたが、12月9日には学友会のクリスマス企画が賑やかに開催されました。

オープンキャンパス・各地での学校説明会

オープンキャンパスは、参加者の健康と安全面を考慮し、規模縮小・企画変更を行い開催しました。オープンキャンパスの魅力の1つである無料体験レッスンは、来学の難しい方のためにオンラインレッスンを導入し、こちらも大変好評でした。また、新たな取り組みとして「オンラインオープンキャンパス」を企画し、本学公式ウェブサイトから様々な情報をいつで

も確認できるようにした他、オンデマンド型体験授業および進学相談も実施しています。

また、例年各地で開催されている学校説明会は、旭川・多摩・鹿児島・那覇の4会場に絞り10月に実施しました。徹底した感染症対策の下、同窓会各支部のご協力により多くの参加者をお迎えし、武蔵野の魅力をお伝えすることができました。

演奏会の開催

年度当初は中止や延期の決断をせざるを得なかった演奏会ですが、前号で掲載した6月の「ニュー・ストリーム・コンサート」を皮切りに再開し、夏期休暇明けには、都内著名ホールで開催を予定していた



▲ 練習もソーシャルディスタンスを確保

前期の管弦楽団定期演奏会を授業発表という形で、また附属高校主催のコンサートをそれぞれ学内のホールにて開催しました。後期に入ると、選抜学生による演奏会、室内楽や室内合唱の演奏会、アートマネジメントコース企画制作公演等の各種演奏会を学内外のホールで実施し、学生たちに演奏の機会を提供しました。また、管弦楽団は、例年行なっている後期定期演奏会での本学合唱団との共演は取りやめた代わりに、前期に予定していたピアノ協奏曲をプログラムに取り入れ、ベートーヴェンホールおよび東京芸術劇場において、またウィンドアンサンブルも同じく東京芸術劇場にて演奏を披露しました。（各演奏会の様子はP11～13の掲載写真をご覧ください）

入学者選抜（入学試験）

2021年度音楽学部入学者を対象とした「入学者選抜試験」の実施方法については、通常の前向きでの試験実施に加え、演奏動画データの提出による審査、およびオンラインによる共通科目の審査を追加しました。昨年10月、11月に行われた「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」は無事終了し、初めて行った演奏動画やオンラインによる審査も滞りなく実施されました。

2月、3月に実施される一般選抜（A、B、およびC日程）についても、オンライン方式を併用して実施します。

今後も引き続き状況に応じた感染症予防対策を講じ、学生、教職員の安全を守りながらよりよい教育環境を整えていきます。予防対策についての詳細は本学ウェブサイトに掲載しています。

対面授業の開始に伴い
現在実施している
感染症予防対策への取り組み



催し物開催における
感染症予防対策への
取り組み



武蔵野を支える人々

「清掃スタッフ」



2017年、ベーターヴェンホールを除く全ての建物が全面的に建て替えられた江古田キャンパス。竣工から4年、まだまだ新築のフレッシュな雰囲気に満ちています。この江古田キャンパスを常に清潔に保ち、学生・教職員・来訪者に気持ちよく過ごしてもらえるよう清掃作業にあたっているのが大林ファシリティーズ株式の協力会社である日生株式会社の皆さん。このコロナ禍にあっても、“きれいなキャンパス”を維持するために日々作業に励んでおられます。今回はスタッフを代表して責任者の三宅敏夫さんと中嶋兼子さんのお二人に、お話を伺いました。

キャンパス全体の 清掃を担当

— 現在、何名のスタッフで清掃作業にあたられていますか？

三宅 現在は19名ですね。勤務時間が7時から15時、7時から11時、9時から13時、15時から19時の4パターンあり、それぞれ1名、9名、5名、4名とシフトを組んで作業しています。

— 作業の手順をお聞かせください。

三宅 通常は朝7時から仕事を始め、最初は教室からです。授業開始が8時40分ですので、遅くても教室の清掃は8時20分までには終わらせるようにしています。手順としては、最初に汚れがちな黒板まわりから始め、ピアノがある場

合にはピアノを掃除。そして床の掃除機がけ、さらに細かな粉塵などを取り除くため紙モップで拭き、最後に窓ガラスの汚れている部分をきれいにして終了です。教室以外の清掃場所は、レッスン室、練習室、廊下、トイレ、教職員の部屋、レストラン、図書館とほぼキャンパス全体ですね。ホールに関しては、演奏会等で使用した際に清掃するようになっています。また、建物の外側、例えばリストプラザはもちろん玄関まわり、外構部分も請け負っています。

— ピアノも掃除するんですね。

中嶋 本体にかなり指紋がついて、目立ちます。それを大学から提供された特別な布で拭いて取り去っています。

— 作業で大変なこと、一番汚れる場所はどこですか？

三宅 通常のビル清掃などに比べ、大学の場合は授業優先、学生さん優先で、作業する時間に制約を受けがちです。ですから、時間配分が大変といえば大変だと思います。汚れやすい場所としては、エントランスですね。特に現在はコロナ対策としてドアを開けて換気していますので、外部から粉塵や葉っぱなどが吹き込みますから。

中嶋 三宅さんの話でも出ましたが、

チョークの粉が飛び散る黒板のまわりが一番汚れる場所。時には驚くほど粉が溜まります。ですが、私は汚れがひどいほどヤル気が出てくるタイプ。「よーし、キレイにしよう！」と(笑)。やっぱり、きれいな方が気持ちいいですよ。

— コロナ感染対策で気をつけていること、作業上で変わったことは？

三宅 当然ながら除菌には細心の注意を払っています。ドアノブ、照明やエアコンのスイッチ、そしてイスと机、それらを全て除菌剤で拭き上げています。そうした面での作業量が増えました。ただ、すべての授業がオンラインだった期間は黒板の使用量が減り、そのぶん労力を他にまわすことができました。

きれいなキャンパスを きれいなままに

— 春夏秋冬、季節によって作業の違いはありますか？

三宅 秋から冬は落ち葉がすごいですね。かなりの労力、人手がかかります。また、冬場になると、部屋によっては結露対応も必要になります。そして冬になって皆さんがセーター等を着て厚着になると、床に溜まる綿ゴミの量が格段に増えます。

中嶋 春の桜はとても美しいのですが、花が散るとちょっと大変ですね。

三宅 雨が降ったりすると、地面に張り付いてしまいます。



▲ホールは演奏会などで使用することに徹底的に清掃する(写真は本学プラームスホール)



▲三宅さん(左)と中嶋さん(右)

—— 清掃作業をする上で心がけていること、特に注意している点は？

三宅 作業を始める前に、まず一通り見渡します。人がいる、いないはもちろんです。傷つけてはいけないものがないか、倒してはいけないものがないか、確認します。

中嶋 危険箇所の確認と忘れ物の確認をして、そこから仕事にかかります。また清掃の仕事は場面や汚れ方に応じて作業内容や作業手順が変わります。今日十分にできなかったら明日取り戻す、そうしたバランスの取れた仕事をするように心がけています。

三宅 私は、清掃とはきれいにすると同時に、衛生面を維持するということが大事な要素だと思っています。とりわけコロナ禍の今は、それを忘れてはならないのではないのでしょうか。

中嶋 清掃作業をする以前に、人間と



▲ 左から三宅さん、酒井さん、大木さん

してマナーや身だしなみをしっかりすることが大事です。働く自分自身と周りの人たちが気持ちよくいられることで、初めてきれいな仕事ができると信じています。

—— 落とし物、忘れ物が多い場所は？ また何が一番多いでしょう？

三宅 比較的多いのは練習室ですね。ペンなどの文房具、イヤリングなどのアクセサリ、そういった小物が多いように思います。このところ街中では落ちているマスクを頻繁に目にしますが、学内でマスクを捨てるのは1週間に1枚あるかないか程度。皆さんしっかりしていっちゃいます(笑)。

—— 2017年に完成したばかりの新キャンパスです。新しいがゆえの清掃のご苦労などありますか？

三宅 キャンパス内は、白い壁が多いため、清掃にはかなり気を使います。

中嶋 汚れを落とすのはもちろんですが、「今のこのきれいな状態をできる限り維持する」、それが私たちのモットーでもあります。

—— 武蔵野の学生の印象は？ また学生とのふれあいで印象深かったエピソードは？

三宅 皆さん礼儀正しく、気軽に挨拶



▲ 落ち葉などもすっきり掃き清められたリストプラザ

もしてくれます。そういう意味では、とても気持ちよく仕事をさせてもらっています。

中嶋 ある日、トイレのあたりで学生さんがとても悲しそうな顔をしていたので事情を聞くと、「大切な鍵の束をどこかに落としてしまった」とのこと。手分けして、あちこち探し回りました。結局、別の清掃員が拾い、学生課に届け無事に彼女のもとに戻ったのですが、彼女はホッと嬉しさのあまり涙ぐんで。私の子供の年頃ですから、貰い泣きして二人で抱き合い、「良かったね」って。そんなことがありました(笑)。

—— 最後に武蔵野の学生へのメッセージをお願いします。

三宅 学生時代は一生付き合える友達をつくる時期です。良い友達をたくさん作ってください。

中嶋 かけがえのない青春時代です。大切にしてください。

他の清掃スタッフの皆さんからも一言いただきました

釜澤美智子さん 武蔵野音大に来て早3年になります。学生さんたちの明るい挨拶により嬉しい気分になって清掃に励んでいます。早くコロナが終息して、また皆さんと会える日を楽しみにしています。

福田春子さん 学生生活をエンジョイし、その中で生涯付き合える友達をつくってくださいね。

神原よし美さん コロナ禍において、マスクの装着、小まめな手洗いを心がけて清掃に取り組んでいます。見えない菌に対し、いかに効率的に清掃する

かを考えながら作業にあたっています。以前と比べ、細部にわたる消毒作業が増えましたね。また、私は音楽が好きで、あまり聴く機会のないハーブの音や大好きな「タンホイザー」のホルンの音色が聴こえたりすると嬉しくなり、常に音楽が身近にある職場で働けることに感謝しています。

大木典子さん キャンパスが竣工した時から仕事をしています。トイレの担当で、皆さんが気持ちよく使用できるよう、「いつも清潔」を心がけて清掃にあたっています。理事長先生を始め、教



▲ 左から関口さん、神原さん、福田さん

職員、学生さんから「おはようございます」「お疲れ様」と声をかけていただいた時はとても嬉しいですね。ホールや練習室から聞こえてくる音色に囲まれながら、毎日楽しく仕事をしています。



附属高等学校演奏会

「第24回在校生と卒業生によるコンサート」を、本学プラームスホールで開催しました。

本コンサートは附属高生徒の向学心に因るため、研究発表の場として毎年開催しています。当日は、「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を教育方針とする本校の見地より、専攻実技のみならず、教育活動全般から総合的に判断、選抜された2、3年生と卒業生がフレッシュな演奏を披露し、会場は温かい拍手に包まれました。

2020年度 後期演奏会開催

本誌 P.8にて掲載した通り、昨秋より各演奏会、公開講座、授業発表が学内外の会場で順次開催されました。コロナ禍で様々な制限があった中、学生たちは真摯に練習に取り組み見事な演奏を披露し、この特別な2020年度の演奏会シーズンを彩りました。

入間市「市民コンサート」管弦楽団演奏会

学部1、2年生を中心に構成された本学管弦楽団が、本学バッハザールで開催された「入間市民コンサート」（入間市立中央公民館主催）に出演しました。プログラムは、シュトラウスⅡ：喜歌劇「こうもり」序曲、モーツァルト：オーボエ協奏曲（オーボエ独奏：佐藤和鷹／ヴィルトゥオーゾコース4年）、チャイコフスキー：交響曲第4番。時任康文講師の指揮の下、学生たちは、久しぶりに演奏が出来る喜びをかみしめながら、気持ちのこもった熱い演奏を披露し、会場からは温かい拍手が送られました。

坂東玉三郎特別招聘教授による声楽特別講座

11/5
12

2020年度より、本学の特別招聘教授に就任された歌舞伎役者の坂東玉三郎氏による声楽特別講座が、本学プラームスホールで開催されました。

講座タイトル「1%のひらめきと99%の努力」をキーワードとして、教授の経験を交えながら“芸術”についてお話しされた後、オーディションで選ばれた学生たちの公開レッスンが始まりました。

第1回は、オペラ「魔笛」の aria が取り上げられ、ドイツ語

の発声、歌い方による感情表現を中心にご講義くださいました。

第2回は、オペラ「フィガロの結婚」より伯爵夫人の aria、オペラ「ラ・ボエーム」よりムゼッタの aria を題材に、“想い”を伴う歌唱や演技を常に意識することの重要性を熱心に指導されました。教授の的確なアドバイスにより、みるみる変わっていく学生たちの演奏に、聴講者から大きな拍手が沸き起こりました。

世界的に著名な舞台人である教授の一言一言、所作の美しさに、会場に集ったすべての人が魅了され、大変有意義な講座となりました。



クロイツァー賞受賞者による演奏会

昨年度大学院ヴィルトゥオーゾコースを修了した古市明里 附属高等学校・音楽教室講師が、本学プラームスホールで今回初めて開催された「クロイツァー賞受賞者による演奏会」に出演されました。

この賞は我が国のピアノ音楽発展に寄与したレオニード・クロイツァー教授の功績を記念するために制定され、氏と縁が深かった東京藝術大学、国立音楽大学、本学の大学院修了生の中から、特に優れた成績を修めた方が選出されます。

古市講師は演奏会において同賞受賞者に相応しい、華麗で深遠な演奏を披露しました。

11/6





11/18



学生による演奏会 ニュー・ストリーム・コンサート

「ニュー・ストリーム・コンサート41～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～」をトッパンホールにて開催しました。

プロの演奏家を育てる音楽学部演奏学科 ヴィルトゥオーゾコースに在籍する学生の中から選抜された学生が、日頃の研鑽の成果を存分に披露し、大変素晴らしい演奏会となりました。学外ホールでの演奏会は大変貴重な機会であり、その舞台経験によって培われた実践力は、夢を実現させるための大きな力となるでしょう。(写真左より 曾田 響 2年 Pf./目黒遥菜 2年 Pf./岸 明日香 4年 Pf./松田晏菜 2年 Sop./斎藤佳音 4年 Sax./島 敬祐 4年 Ten.)

11/24



オペラ試演会

オーディションで選抜された学部生および大学院生によるオペラの試演会が、本学プラームスホールで行われ、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた演出で、W.A. モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」、V. ベッリーニ「カプレーティ家とモンテッキ家」、G. ドニゼッティ「愛の妙薬」の各演目より抜粋したシーンを上演しました。

11/26



アートマネジメントコース企画制作公演 パイプオルガンで楽しむ音楽会2020～オペラ座の怪人とともに～

音楽総合学科アートマネジメントコースによる初めての企画制作公演を本学モーツァルトホールにて開催しました。

本公演は、4年生がこれまでの学修の集大成として企画制作から公演までのすべてを担い、第1部では、石丸由佳講師がパイプオルガンのレクチャーとともにバッハやホルストの名曲を演奏、第2部では、作曲コースや演奏学科の学生も協力し、ミュージカル「オペラ座の怪人」の楽曲を、さまざまな楽器とパイプオルガンのコラボレーションにより披露しました。プロジェクトマッピングを用いた演出効果も高く、会場は大きな拍手に包まれました。

管弦楽団演奏会

本学管弦楽団演奏会が北原幸男教授指揮の下、本学ベートーヴェンホール、東京芸術劇場コンサートホールの両会場にて開催されました。

R. シュトラウス：交響詩「ドン・ファン」Op.20で華やかに幕を開け、続くシューマン：ピアノ協奏曲イ短調 Op.54では、ソリストとして学内オーディションにより選抜された、茂木孔亮（ヴィル

12/2



トゥオーゾコース3年/11月23日)、目黒遥菜（ヴィルトゥオーゾコース2年/12月2日）の両名が、それぞれの持ち味を存分に発揮し、オーケストラと息のあった見事な演奏を披露しました。プログラム最後のブラームス：交響曲第2番ニ長調 Op.73では、明るく美しい旋律の中にも重厚な響きを併せ持つ音楽を表現し、最後は力強いハーモニーで堂々と締めくくりました(表紙写真)。本学にとって今年度初となる定期演奏会に、両日とも学内外から沢山の方にお越しいただき、コロナ禍を振り払うような熱のこもった学生たちの演奏に惜しめない拍手が送られました。

11/23



12/8

ウィンドアンサンブル演奏会

本学ウィンドアンサンブル演奏会が、東京芸術劇場コンサートホールで開催されました。今回は、指揮・指導に元陸上自衛隊中央音楽隊隊長で本学卒業生でもある武田 晃講師があたりました。学生たちは、コロナ禍により、通常より間隔を広めに取ったセッティングから生じるアンサンブルの難しさに直面しながらも、団員として練習ができる喜びを感じながら、演奏会に向けて研鑽を積んできました。当日は、ティケリ「アケイディアナ」、J. M. デイヴィッド「ウィズ・ソウル・セリーン」、チェザリーニ「アルプスの詩」などの吹奏楽作品を色彩豊かに熱演し、客席からの大きな拍手に笑顔で応えました。



12/11



室内合唱団演奏会

本学ベートーヴェンホールで開催された本学室内合唱団演奏会（指揮：栗山文昭教授、片山みゆき講師）では、感染予防のためにマスクを装着して、グレゴリオ聖歌やルネサンス期のミサ曲、ブラームス、邦人作品など、多彩で幅広い年代の曲目を演奏しました。ブラームス「愛の歌」Op.52では、独唱やピアノ連弾を含む演奏が、華やかで美しいハーモニーをつくり上げました。

また会場には、「ジグザグな屋根の下で」「群青」の作曲・編曲をされた信長貴富さんをお招きし、学生たちの演奏を聴いて頂きました。来場者は、今この時だからこそ感じる様々な思いを抱きながら、学生たちの生き生きとした演奏に心を奪われていました。

音楽の万華鏡 ②

作曲で希望を見出した バッハベル

2020年は世界中がコロナ一色に染められた、と言っても良いだろう。このような厄介な疫病は、歴史の流れの中で人類に何度も襲いかかり、音楽家達にも大きな影響を与えてきた。

「バッハベルのカノン」で有名なバロック時代ドイツの作曲家J.バッハベル（1653-1706）も、疫病の広がりから影響を受けたひとりである。1677年にアイゼナハの宮廷オルガニスト、翌年にはエアフルトのプレディガー教会オルガニストに就任、バッハ一族とも交流を保

ちながら豊かな音楽活動を展開した。そして81年には結婚、息子も授かった。しかし83年9月、このチューリンゲン地方で猛威を振るったペストのために、妻も幼い息子も世を去った。この深い悲しみから、バッハベルはこの年の内に曲集《音楽による死の思い》を作曲、出版している。しかし、この個人的な曲集は、出版譜としては残らず、筆写譜の形で伝えられている。バッハベルはこの年に7曲のコーラル変奏曲を書いているが、その内の4曲はこの曲集の構成曲と考えられている。いずれもルター派教会に伝えられてきたコーラルを軸として、その後7から12個の変奏が続く。例えば《我らが命なるキリストは》（第1曲）や《人はみな死すべきもの》（第2曲）と言った曲名からは、重苦しい印象を受けるかもしれない。しかし、どの変奏曲にも穏やかな悲

しみを表わすような柔らかな半音階の動きが変奏の一つに現れるものの、全体として明るい音調を持つ。例えば第2曲では明るい二長調の変奏が続き、第7変奏で初めて半音階が現れるものの、終曲の第8変奏は華やかに曲を閉じる。バッハベルは作曲を通して希望の光を見出していたのであろう。そのことは、作曲者が自らを奮い立たせるコーラルを選び、2曲のコーラル変奏曲《晴れやかになれ、わが心よ》と《喜べ我が魂よ》を作曲していることから分かる。こうしてバッハベルは翌年、1684年8月に再婚した。この結婚から生まれた5人の息子のうち2人は音楽家、1人は楽器製作者、2人の娘のうち1人は版画家および銅版画家として名を成した。

寺本まり子（音楽学特任教授）

編集後記

あけましておめでとうございます。コロナ禍が収束を見ないなか、新たな年、2021年を迎えました。まだしばらくは様々な場面で不便・不自由を余儀なくされることと思いますが、世界の叡智を結集して、ワクチンや治療薬の開発は着実に進んでい

ます。我々は、手洗い・マスク着用・三密回避など既に身につけた“新しい生活様式”を粛々と実践しつつ、自分自身が今なすべきこと、勉強や練習に励むのみです。あれこれ制限や制約のあるなかで続けた不断の努力は、いつか必ず報われるに違いありません（編）。

武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

※ご芳名(五十音順)は、令和2年7月16日から10月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】石川浩子様 内田のり子様 葛目尚子様 斎藤叡子様 高橋寿奈様 林 秀樹様 谷藤祥子様

【在学生】石川悦代様

【役員・教職員・一般・他】伊東京子様 小栗泰一郎様 佐野悦郎様 重松 聡様 中川俊宏様 日高正枝様 福井 修様 福井礼子様 堀田健介様 吉岡成夫様 ベーテン音楽協会様 (他に匿名を希望される方7名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

- 2020年度沖縄県文化功労者として表彰される
佐久本真智子(昭和26年大学ピアノ専攻卒業) (順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)
- 日本フィルハーモニー交響楽団にコントラバス奏者として入団(2020年7月)
山口雅之(平成31年大学コントラバス専攻卒業)
- 第1回国際モスクワ音楽オンラインコンクール プロフェッショナルピアノ部門(22歳から26歳のカテゴリー)
第1位入賞、特別賞受賞 吉原麻実(平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年)
- 第22回日本ピアノコンクール 銀賞受賞 大竹千寛(平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年)、●第19回北陸新人登竜門コンサート出演者オーディション(ピアノ部門)合格、オーケストラ・アンサンブル金沢と共演予定(2021年5月) 石田詩葉(大学3年ピアノ専攻)、●第89回日本音楽コンクール 声楽部門本選 入選 照屋篤紀(平成25年大学声楽専攻卒業、本大学院修了)、●第22回日本演奏家コンクール ピアノ部門 一般Aの部 第3位入賞 吉原麻実(平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年)、●第11回ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール 大学生部門 第3位入賞 坂井友香(大学3年ピアノ専攻)、●第28回太陽カンツォーネ・コンコルソ クラシック部門 第3位入賞 長谷川智子(本大学院1年声楽専攻)、●第28回ヤングアーティストピアノコンクール ピアノ独奏部門 Sグループ 銅賞受賞 結束真琴(令和2年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年)、●SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2020 ピアノ部門 全国大会 大学生の部 第3位入賞(2位なし) 大島夕季(大学4年ピアノ専攻)、●第12回徳島音楽コンクール 打楽器部門 大学・一般の部 銀賞受賞 瀧口花音(大学3年マリンバ専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

2021年度(令和3年度)入学試験日程のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科

	出願期間		試験期間
	郵送	窓	
博士後期課程	2021年2月12日☑消印 ～2月19日☑必着	郵送のみ	2021年 3月8日☑・9日☑

武蔵野音楽大学(音楽学部)

	出願期間		試験期間
	郵送	窓	
1年次 一般選抜 A日程	2021年1月22日☑消印 ～1月29日☑必着	2021年1月29日☑	2021年 2月18日☑～22日☑
1年次 一般選抜 B日程	2021年2月22日☑消印 ～3月1日☑必着	2021年3月1日☑	2021年 3月5日☑～7日☑
1年次 一般選抜 C日程	2021年3月5日☑消印 ～3月12日☑必着	2021年3月13日☑	2021年 3月16日☑～18日☑
3年次 編・転入学(一般)	2021年1月15日☑消印 ～1月22日☑必着	郵送のみ	2021年 2月10日☑・11日☑

●一般選抜A・BおよびC日程の受験では、国語・外国語(英語・ドイツ語またはフランス語)については、大学入学共通テストまたは旧大学入試センター試験の成績を利用できます。

武蔵野音楽大学別科

別科	出願期間		試験期間
	郵送	窓	
	2021年1月15日☑消印 ～1月22日☑必着	郵送のみ	2021年 2月11日☑・12日☑

武蔵野音楽大学附属高等学校(音楽科)

	出願期間		試験期間
	郵送	窓	
推薦入試	2021年1月8日☑ ～1月15日☑必着	郵送のみ	2021年1月22日☑ ※附属高等学校 入間キャンパスにて実施
一般入試A	2021年1月23日☑ ～1月30日☑消印	郵送のみ	2021年2月10日☑
一般入試B	2021年3月2日☑ ～3月10日☑必着	郵送のみ	2021年3月16日☑

詳細は、各入学試験要項でご確認ください。

【会場】武蔵野音楽大学江古田キャンパス(附属高校推薦入試を除く)

【要項請求】2021年度武蔵野音楽大学の各入学試験要項は江古田キャンパスで取り扱っています。

ご希望の方は、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からお申込みいただくか、広報室へお電話にてご請求ください。

【要項請求先】武蔵野音楽大学 広報室 TEL. 03-3992-1125

本学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>



音楽教室(江古田・入間・多摩)生徒募集のお知らせ

◆受験可能な年齢・学年(令和3年3月末現在)

ブレイクス	3歳
スタンダードコース	4歳～高等学校2年生
レッスンコース	小学校6年生～高等学校2年生
ソルフェージュコース	4歳～高等学校2年生
受験コース(大学志望)	中学校3年生～高等学校3年生
エクセレンスコース (江古田音楽教室のみ設置)	5歳～高等学校2年生

【前期入室試験】令和3年2月28日☑ 各音楽教室で実施

※エクセレンスコースは江古田音楽教室で行います。

【願書受付】令和3年2月6日☑～2月17日☑ ※日曜・月曜・祝日を除く

入室試験の詳細については、令和3年度音楽教室のご案内(生徒募集要項)でご確認ください。要項は各音楽教室で取り扱っております。音楽教室ウェブサイトの資料請求フォームからもご請求いただけます(送料無料)。その他詳細については、下記へお問い合わせください。

■江古田音楽教室 TEL.03-3994-7536 ■入間音楽教室 TEL.04-2932-1111

■多摩音楽教室 TEL.042-389-0711

音楽教室ウェブサイト http://music_school.musashino-music.ac.jp/

笛二種

前田 仁 作 1993年 日本 全長39cm(横笛)／26cm(縦笛)

まだ大陸から多くの楽器や音楽が日本に伝来されるはるか昔、日本ではフエやコト、スズやツツミなどの楽器が用いられていた。石器時代には、すでに球形、横笛、縦笛など、さまざまな形状の石製のフエが認められている。カタカナで表したこれら古代のことばには包括的な意味があり、例えばフエは縦笛や横笛の他にも「笙のフエ」「箏のフエ」のように、長い間管楽器の総称として用いられてきた。

写真の笛は、香川県讃岐地方特産の石「サヌカイト」を用いた現代の創作楽器で、それぞれ龍笛や尺八を模した横笛と縦笛である。原石を打つとカーンと響くことから、俗に「カンカン石」という愛称で呼ばれてきたサヌカイトは、今から約1,350万年前、瀬戸内地域の火山活動の中で地底から噴出した火山岩である。色が黒く、粒子が緻密でガラス質に富んだ石質に加えて、同一方向に目がそろっていることから加工に適しており、旧石器時代には矢じりや石斧などの石器として利用されてきたことが、各地の出土遺跡から明らかになっている。

この石に新たな息吹を吹き込んだのは、後に数々のサヌカイト楽器の開発に情熱を注いだ前田仁氏である。

前田氏は自身の住む香川県坂出市金山が、実は旧石器時代に石器の素材で知られてきたサヌカイトの産地であったということに感動し、是非このカンカン石を楽器という形で現代に生まれ変わらせたいと、サヌカイト楽器の開発に着手された。現在、武蔵野音楽大学の各ホールで開演を知らせるチャイムも、前田氏が開発されたサヌカイト楽器の響きである。

つややかな漆黒の二種の笛には、赤漆で日本の伝統的紋様である龍と鳳凰が、モダンに格調高く描かれており、太古の産物は、悠久の時を経て私たちに新たな感動を与えてくれるのである。

(武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵)



❖目次❖

年頭のご挨拶	1
福井直敬	
慶應義塾機関誌「三田評論」より転載	2
武蔵野音楽大学学長に就任して	
福井直昭	
2020年度 コロナ禍における本学の教育活動	8
武蔵野を支える人々	9
清掃スタッフ	
MUSASHINO NEWS	11
❖2020年度 後期演奏会開催	
❖武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々	
❖栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）	
❖2021年度（令和3年度）入学試験日程のお知らせ	
❖音楽教室（江古田・入間・多摩）生徒募集のお知らせ	
音楽の万華鏡	13
作曲で希望を見出したパッヘルベル 寺本まり子	

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121（代表）

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711（代表）

<http://www.musashino-music.ac.jp/>    

2021年1月10日発行 通巻第136号